

学校「イメージで選択」

志望学科トップは「看護」

大館短大

3県の高校生にアンケート

秋田短大誘致促進期成同盟会(会長・小畑市長)は、秋田・青森・岩手の北東北三県の高校生を対象に「進学に関するアンケート調査」を行い、結果をまとめた。今回の調査では、短大を志望する女子生徒の大館に対する認識が低いといった今後取り組むべき新たな課題が示されたほか、大館への進学について青森県の生徒の関心が高いこと、「看護」への人気が高いことなどが分かった。調査結果は短大の早期実現に向けた活動のための資料として活用していきます。

設問は13項目

短大志望者は15%

アンケートは、設置準備を進めている大館短期大学(仮称)について三県の高校生がどのよ

回答人数・高校数

	合計	男子	女子	高校数
秋田	1,634	713	921	40
青森	304	141	163	7
岩手	524	223	301	13
計	2,462	1,077	1,385	60

うな意識をもっているかを把握する目的で、去年に続いて二回目。前回、秋田県内の対象校は県北地区だけだったが、今回は全県に広げ、より精度の高いデータを得られるようにしました。調査内容は、①進学動向②志望校と志望学科決定の理由③大館短大について——など十三項目です。

まとめによると、三県の短大進学希望率は一五%、大学は五二%、専修学校が一四%になっています。県別の短大進学希望率は、秋田県が一七%、青森県一〇%、岩手県一一%と秋田県がやや高くなっています。

このうち短大志望者の公私希望をみると、秋田県では私立が二〇%、国公立が五七%、どちらもよいが二三%となっています。

調査方法

今回の調査は、大館短大開校時に主に学生が集まると想定される地域の高校を対象に行いました。秋田県は県北の全高校、中央・県南の進学者のいる高校合わせて四十六校、青森県は弘前市周辺の九校、岩手県は盛岡市周辺の十四校を抽出、七月中旬にアンケート用紙を送りました。対象生徒は高校二年生で、各校に一人ずつ選択してもらいました。このうち六十校、二千四百六十二人から回答を得、回収率は八七%でした。

青森県は私立二一%、国公立三九%、どちらもよい二五%。岩手県では私立二一%、国公立五五%、どちらもよい二四%となっています。

自宅通学希望が

低い秋田県

通学に関する設問では、自宅通学を希望しているのは青森県

市長リポート



No.31

教育都市・おおだて

高等教育機関の設置は、大館にとって重要な課題です。来年四月一日には、秋田職業能力開発短期大学校が開校します。これは「教育都市・大館」を実現する第一歩です。そして現在、大館短期大学の誘致に向けて、全力を挙げています。

大学ができれば、まちが大きく変わります。若者が地元に残り、他県からも学生が入学してきます。人とともに情報も動きます。また、経済的な効果も期待できます。

大館が名実ともに県北の中核都市として発展していくために、整えていかなければならない機能がいくつかあります。高等教育機関の設置も重要なポイントです。

秋田県全体を見ても大学、短大の数は少なく、一極に集中しているのが現状です。

大館発展のために、大館短大はぜひ必要です。実現に向けてさらに頑張っていきます。

小畑 元